

日本語指導が必要な児童生徒の支援（名古屋市）

本市の現状：日本語指導が必要な児童生徒 2790人（R5.5.1現在） 令和4年度から240人以上増加

<現在の主な支援体制>

学校への人的配置：日本語教育適応学級担当教員141人（R4より 人増）日本語指導講師34人（R4より3人増）

日本語教育相談 センター

コーディネーター6人

- ・日本語指導体制の運営窓口
- ・初期の教室や通級指導教室の入級手続き
- ・母語学習協力員の巡回指導の計画

コンサルタント12人

フィリピン語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、ハンガリー語の通訳・翻訳

初期日本語集中教室

【対面型個別指導教室 2教室 北区・港区】

各教室に企画指導員1人 指導員1人 アシスタント6～8人

定員：各教室8～10人程度 指導期間：約3か月
月～金の午前中 初歩的な日本語指導と学校への適応指導
※午後は在籍校で生活 **小学生は保護者の送迎が必要**

【遠隔型指導教室 2教室】 **入級できない児童を支援する必要**

指導員2人（令和5年度は、1教室拡充して2教室で運営）

1人の指導員がグループ指導（5人）午前中2グループ授業実施
指導期間：約4か月 1人の指導員が前期・後期の2ターム実施

通級が困難な小・中学生を対象に年間27人受入

遠隔指導アシスタント（2人）を派遣し、学校の教員を支援

母語学習協力員

R4(46人)→R5(48人) 拡充

- ・フィリピン語（12人）
- ・ポルトガル語（11人）
- ・中国語（22人）
- ・ネパール語（2人）
- ・ベトナム語（1人）

スーパーバイザー3人
居住地域に配置
母語学習協力員の指導

【巡回指導】

母語学習協力員を希望校へ派遣
6月～3月（毎週水曜日）

散在化への対応（年間 回）
各学校で日本語指導担当教員と連携

日本語通級指導教室（16教室）
にも派遣→学習言語の習得支援

<今後の課題>

多言語化への対応

ネパール語、ベトナム語、ウルドゥ語、タミル語などの児童生徒が増加
母語学習協力員・コンサルタントの拡充

初期日本語集中教室の受入体制強化

民間事業委託による対面グループ指導教室を拡充したが、まだ入級待ちが生じている。
➡ 民間事業委託による教室の増設を検討

学習言語の習得、教科学習の支援

日常会話ができても学習言語につまづき、授業を理解できない児童生徒への支援が必要。
➡ AI同時翻訳ツールの試行導入を検討